

防コミの歩き方



自分たちができることは？ ～ 摩耶防災福祉コミュニティ ～

●地区の特性

摩耶防災福祉コミュニティは平成10年12月に結成され、摩耶小学校区において活動しています。同校区は灘区の西北に位置し、阪急電鉄神戸線から市道山麓線に至る傾斜地に住宅が立ち並んでいます。古くから地域のつながりが強いことで知られ、人情が溢れる町です。一方、住居が密集しており、路地も狭いため、火災発生時の延焼危険に対して住民は危機感を抱いています。また、地区の一部が土砂災害警戒区域に含まれているため、豪雨時の土砂災害に対しても警戒感が高まっています。

●自分たちで何ができるか話し合う

このような状況のなか、摩耶防災福祉コミュニティでは、昨年度より災害発生に備えて、定期的にワークショップを開催しています。「自分たちができること、あるいはやるべきことは？」とのテーマを掲げ、避難する際の課題や災害発生直後における避難所の運営など、行政の手が届くまでの間に地域住民のみで何ができるかを話し合っています。その中で、参加者からは以下のような意見が出ました。

- ・路地が通れなくなることを考慮し、街歩きをして危険箇所を確認したい。
- ・体の弱い人をどのように避難所へ連れていくのか考えよう。
- ・避難所開設時には名簿を作成し、避難者の情報などを行政に引き継ぐようにできないか。

また、70代の参加者からは「自分自身が

避難するのに援助が必要かも」といった切実な訴えも出ました。

●訓練をおこなって確認する

話し合った課題は、実際に訓練をおこなって確認します。6月にはPTAの方々にも声をかけ、誘導ロープや簡易担架、車椅子を用いて、災害時要援護者の方とともに摩耶小学校まで避難する訓練をおこないました。その後、消防団の指導による放水訓練のほか、特別支援学校で経験のある防コミ委員による、車椅子の取り扱い方法の説明などもおこなわれました。



●今後も継続してゆく

9月にはさまざまな障がいをもつ方や、その家族、関係施設職員と避難の課題について話し合いました。今後はともに街を歩き、安全な避難方法を探ります。さらに11月には摩耶地区で土砂災害の危険が高まったという想定のもと、地域住民や障がい者の方々が摩耶地区外の小学校まで避難する訓練もおこなう予定です。このように、「話し合い、実践し、確認する」ことを繰り返し、災害に強い街づくりを進めています。
(灘消防署)